

令和4年度第3回 静岡市みどり審議会会議録

- 1 日 時 令和5年3月9日（木） 14時～16時
- 2 場 所 静岡市役所 4階 災害対策室
- 3 出席者 (委員) 五十嵐会長、青木委員、伊東委員、大石委員、川口委員、杉本委員、竹内委員、三津山委員、守屋委員
(事務局) 鈴木緑化政策担当部長、桑原緑地政策課長、吉川係長、大滝副主幹、池谷主査
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 (1) みどりの基本計画改定の内容について
1) 前回の振り返り（第1章～第4章）
2) 第5章 公園・緑地のマネジメント・リノベーションのあり方
3) 第6章 計画の推進に向けて
- 6 会議録
1) 前回の振り返り（第1章～第4章）について
- 五十嵐会長 1回目、2回目の委員会で意見が出たことについて詳細な説明はなかったが、今日の最終案で大事なところ、大きくいじったところを説明いただいた。ご意見はあるか。 五十嵐会長 ウォークابلについて解説を入れた方が良い。
- 伊東委員 P35についてだが、P34のタイトルが「市民・事業者等による公園・緑地の管理・利活用の状況」で、公園愛護会による活動状況、これは市民や愛護に携わる方の活動状況、それにプラス、今回は指定管理者によるという新たな視点、一般の方ではなく、指定管理者は企業だと思う。そういった企業の視点があり、企業までは行かないがキッチンカーというもう少し小さな単位、非常にまとまっていると思う。1つ参考として教えてほしいのが、指定管理者は、駿府城公園、あさはた緑地はどこがやっているのか
- 事務局 駿府城公園は共同体でやっていただいている。静岡市のまちづくり公社と静岡鉄道の運営部門である。
- 伊東委員 企業が入られているということか。
- 事務局 そうである。その合同企業体でやっていただいている。
あさはた緑地は自然環境がメインということで、それに特化した組織を作っていただき、指定管理をやっていただいている。

伊東委員
事務局
守屋委員
それは造園だったり民間の企業が入られているということか。
そうである。
P36 のキッチンカーについて、便利に思う方はたくさんいると思う
が、キッチンカーから流れてくる音楽や匂いが気になる。わざわざ
公園の中に入れるのか。苦情はないと思うが、そういう意見はない
のか。

事務局
音や匂いの苦情はない。お堀のところにあるテラスは地元の皆さん
がメインになって静岡市とタッグを組んでやり始めた。利用者の方
からの苦情は来ていない。大きい音でガンガンやるイベントの苦情
は来ている。

守屋委員
お堀のところはあまり気にならない。駿府城公園の中に入ってすぐ
のあたりに車が 2、3 台止まっていたりすると、え？という感じに
なる。場所を考えていただきたい。

五十嵐会長
導入規準があるのか。例えば面積が何 ha とか、どういう公園をこ
れの対象にするとか。全部対象にしているわけではないだろう。

事務局
決まっている。比較的規模の大きい船越とか駿府城公園、あさはた
緑地などである。

五十嵐会長
これは常設か。

事務局
常設ではない。許可を取って土日など、人が多く来るときのみであ
る。

五十嵐会長
それは契約してやっているのか。

事務局
その団体は公募して、その都度審査してやっている。

事務局
補足する。静岡市では比較的大きめの公園でやっている。この行き
着く先は、公園での便益施設、飲食や休憩、皆さんがあつたらいい
なという施設を本来ならそういった公園に置くことを想定してい
る。例えば駿府城公園は今おでん屋さんしかない。駿府城公園の中
にも便益施設、飲食店が 2 つほど駿府城公園再整備の計画としては
ある。どちらかという社会実験的にやっていくという意図もある。
この後、官民連携して整備していくというところが 5 章から続いて
いくが、市民が利用するに当たって、売店がかなり歩かないとない
といったところの利便性として、社会実験的な部分もあるし、現在
そういう施設がないという現実に対して利便性を上げていく、そう
いった意図でやっている。

守屋委員
何年前か、某コーヒー専門店が入るような話で、排水がどうのこう
のとこちらでも審査させていただいた。それは完全になくなったの
か。

事務局
なくなってはいない。城北公園の話だが。

守屋委員
城北公園ではなくて、最初は駿府城公園だった。

事務局
あれが先ほど言った計画があるという話である。あれのほかに城北
公園であるとか、船越堤公園であるとか、利便性を上げるためにそ

ういった施設を入れていこうという基本的な考え方を持っている。今現在の不便さを市民の皆さんにもっと便利になるようにやってもらうということで、最終的なところはハコモノができるところもある。ニーズがあればそういったものもできてくる。

五十嵐会長

今の話は2通りある。こういう施設が欲しくて、ここでお茶が飲めたらいいという形で、そういう施設を作りたい。しかし恒久的なものは、事務局から説明があったように、まだ早い。もっとこういうことで対応しよう、そういうことがある。

もう1つは、公園は本当にそういうものが必要なのかという方々もおられるわけである。特に変なBGMを流すなど、そういう話で反発を余計に高めてしまうこともあると思う。

まだ社会実験的で、これからそういう施設をどう対応していくか、そういうことで行っているという話である。5章のところにも社会実験の話が出てくる。市民の方々の意見をどう把握して、どう対応していくのか。単に面積を決めた公園で、公募して審査するというだけでいいかどうかという話になってくる。5章を説明されると思うので、そこでも議論したい。

一時代前はどちらかというと公園管理者は追い出していた。向こうは商売になるので土日に入ってきてというのはやっていた。それが今公園に対する利用者の要望が強くなり、民活をしようというスタンスも出てきたので、今こういう取組をどこまでやろうかという動きが全国的にもある。特に有名なのは東京都の上野公園で、国立博物館のところでは大手のコーヒーがものすごく賑わっている。ああいうのは大成功だという評価である。しかし苦々しく思っている人もいないことはない。

いろいろなご意見があると思うが、抜けている5章についてどういうまとめ方をされたのか、説明をいただいてからまたご意見をいただきたい。

2) 第5章 公園・緑地のマネジメント・リノベーションのあり方について

五十嵐会長

新しく今回まとめていただいた第5章、公園緑地のマネジメント・リノベーションのあり方、管理運営問題であるが、いろいろな国の動きも踏まえながらまとめていただいた。これについてご意見、質問があればご発言いただきたい。

伊東委員

5-4のDXだが、P111にあるように、公園の利用、管理に関わるデータをデジタル化、オープンデータ化し、皆さんに使っていただける。

もう1つは、データのデジタル化とは離れるが、ここの議論に関し

て、例えば Wi-Fi が使える環境や、非接触、キャッシュレス化など、具体的に使うというところも併せてやったほうがよい。

静岡市の中で使えるところは少ないかもしれないが、そういった施設はある。2本立てで、データのデジタル化と非接触や Wi-Fi などのデジタル技術も併用して書くとわかりやすいのではないか。

五十嵐会長

5-4 を読んでも市民はわからないと思う。公園とかみどりに連動するような書き方ができるとまだ理解できる。こういうところに応用するとか、今こういうのをこうやっているけれど、こうしていきたいとか。先進地の事例の紹介があったが、ああいうものと結びつけてやる手もあるかもしれない。

伊東委員

最近スマホで木や花の名前がわかる。QR コードで説明が出るというのをやっている。そういうのも具体の1つの例である。

五十嵐会長

県営公園でも始めている。

伊東委員

検討している。浜名湖ガーデンパークが再来年度 20 周年で、それに向けてそういう取組をしている。エントランスに入ると自分のスマホが案内役になるというのも今ある。

事務局

城北公園で Park-PFI をやっているときに皆さんからの意見を聞くために掲示板のところに QR コードをつけて、それを読み取ってもらうとアンケート形式で回答ができるとか、そういう取組も今後推進していきたいと思っている。

五十嵐会長

せっかく書くのであれば、みどりの基本計画だから、それとどういう関連があるのかということをも市民の人が見てわかるようにするとよいのではないか。

伊東委員

文字ばかりである。

五十嵐会長

しかも苦手なカタカナの文章ばかりである。

伊東委員

事例を交えながらやるとよい。

竹内委員

国の森林白書を見ていただくと、変遷の中でやわらかさの示し方は参考になる。ここ数年の中で、イラストを入れたり、女性が森の中に入って林業をやるということ誘導するようなことが入っている。そういうのも参考にしていきたい。ターゲットは子どもなり、いろいろなところがあるだろうが、今の話は各層に分けている訴えているというところが明確になると面白いのではないか。

五十嵐会長

P108 に国が検討している結果をまとめてあったが、この表だけ読んでも一般の人はわからない。さっき説明したような形でかみ砕くとよいと思う。さっきの説明にあったようなこういうことですよという、これをカバーするためにそれをやるとわかりやすい。

P109、新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの場の創出ということで書かれているが、これはこれでいいのだが、特に(1)のグリーンインフラに関する取組の推進を読んでもどういうことかよくわからない。例えば、「本市においては、グリーンインフラ

を本計画に位置づけ」、どうということなのか。当然みどりはグリーンインフラだということの説明が前のほうにある。ここの文章はよくわからない。それよりも、皆さんもっと張り切って、みどりの基本計画におけるみどりというものはいわゆるグリーンインフラの中核をなすもの、そういう形で書けばよいのではないか。グリーンインフラといっても、いろいろな事業でそれをやっていきましょう、グリーンインフラ的な部分をおもてに出してやっていきましょう、それをガッチャンコしてグリーンインフラが広がっていきますよという話だと思う。みどりの基本計画そのものがグリーンインフラではないか。それを俺らは中核をやっているのだというぐらいに言ってしまうといいと思う。「取組の推進」ということではなくて、そういう覚悟でやっていきますよとやったほうがわかるのではないか。皆さんいろいろアイデアを出している。そういうのがグリーンインフラである。それをやることを考えるということで、(1)で言ったらよいのではないかと思う。

(3)の「国際競争力を高める公園・緑地の創出」というのはわからない。これこそ答申書にもあるように、世界に輝くまちづくりをやっていきますと言っているのだから、ここは「世界に輝くまちの魅力や公園・緑地の創出」とすればよいのではないか。世界に輝くまちづくりにこのみどりの基本計画にていろいろ考えていることは中心をなしている、位置づけられていくんですよというような少し積極的な考え方を書いたらどうか。国際競争力を高める公園・緑地というところちょっとわからない。

川口委員

専門委員でやっていて、事前に検討しているのであまり言えないのだが、今の話の中で、おっしゃるとおり「グリーンインフラに関する取組の推進」というよりも、公園のグリーンインフラとしての機能の最大発揮ぐらいで、もともと公園というのはグリーンインフラという力があるわけだから、横断的な取組を広げることでその機能を最大に発揮する、そういう視点が書ければよいのではないか。国際競争力を高めるという話の中にも、公園で私たちは何を感じてここを特別な場所だなと思うのかと思ったときには、入ったときに周辺環境が非常にいい状況の中で改めて富士山を見るとか、海を見てみたり、みどりをみたりということを考えるならば、まちの魅力をより顕在化させる、明らかにしていく場所としての公園の力を発揮させる、そういう表現のほうがよいのではないか。公園、みどりというものを軸にした表現の仕方、そういう形で工夫されるとよいのではないか。

特にここで高めるときに駿府城公園とか大浜公園となったときに、駿府城公園の景観もいいし、歴史、背景みたいなものはここへ来るからこそ気持ち的に高まった中で感じられるというところがある

ので、公園のそういう力を生かして、まちの魅力をより広く皆さんに示して感じられるようにしよう、そういうスタンスを出してもよいのではないか。

ここで今後どうやっていくのかというのが大きくクエスチョンを持っている。静岡市としての公園における協議会をどうやって立ち上げて、どうやって運営していくのかということがクエスチョンである。やっていくべきことだから、工夫しながらどうやっていくのかというところを思っている。あまりこの段階で決めつけをすると逆に枠がはまってしまって、受け側の市民側の枠が絞られてしまい可能性を閉ざすのもよくない。表現としてはこれかもしれないが、懸念しているわけではなく、期待を持ってどうやってこれを進めていくのかというところの具体化のプロセスに大変興味がある。端的に言うと受け皿は一体誰になるのか。そこまで言及は難しいと思うが、専門委員会の際に、事例ではPFIをやっているような人たちが地域と断絶することがないように協議会という形を作って地域意見の吸い上げのための組織として連携を図っているということで、公園ごとにいろいろな協議会が果たすべき役割や期待することが変わってくるのかなと思っている。まだこれがいま一つはっきりしてこない。あまりはっきりさせなくてもいいのかなというところであるが、間違いなく一步は進んでほしいという意見である。内容がどうこうということではない。

五十嵐会長

市がやる気を出して、協議会を作ってみんなやったらすごいと思う。城北公園は揉めたようなことがあってうまくいっていなかった。ああいう話も含めて、事前からちゃんと丁寧にこれをやっていけばうまくいったかもしれない。これをこういう格好でみんなこれからやりますとやったらすごいと思う。ただ、ものすごく大変かもしれない。ここまでがっちり書いて本当にやる気になったらすごい。

川口委員

景観条例を作るときのまちづくり協議会の立ち上げの仕方として、市が政策的にここでは協議会を作ってまちづくりをしていきたいというある種の指定をしたりして協議会を作ったりするが、それだけではなくて、ボトムアップ的に自分たちはこういうまちづくりをしていくということを表明して、それを協議会として位置づけて市の指定を受けるという2通りの形を景観条例のときには取っていたと思う。内容的に協議会を設立するときのプロセスとして、そういう形もあたりだったので、ボトムアップ的なものと政策的に進めるべきものと仕分けをしながら進めるというやり方もあるのではないかな。それが公園に適しているかどうかは精査する必要がある。

五十嵐会長

ほかの地方公共団体で取り組まれている協議会の例があった。あれも個々に対象としていることが違ったり、やり方が違ったりというのはあるので、勉強として静岡市としてはこれで行こうという

のがあればそういうのを打ち出していったらよいと思う。
個々の公園で、全体の公園についてという意味ではない。そもそも個々の公園で協議会を作ったというのは、どうして作ったのか。そういう話から始まっているケースが多いと思う。

ボール遊びができるようにしてほしいという船橋の例があったが、あれは個々の公園ではなくて、全市の公園を頭に置いて、その中からそういう公園をどう作っていかうかという話なので、広い話でやっている。そういう大きな問題と、個々の公園の特殊な問題と協議会の作り方というのはいろいろあるということである。その辺からどう表現していくかというのを決めたらよいかもしれない。

三津山委員

P111の社会実験の場としての利活用ということで、キッチンカーとかマルシェとか直接みどりではない部分で幅広くやっていくとあるのだが、私はどうしても農業という立場から、例えば都市公園の中に、農園ではないが、体験できるようなものというのは、前例があるかどうか分からないが。

五十嵐会長
三津山委員

すごくある。

そこに行った人が、例えばキュウリ、トマトの収穫体験ができるとか、子どもに見せるとか。オクラは面白いと思う。オクラは上を向いてなっているので、初めて見た人はびっくりする。そういう体験も含めて、そういう可能性は静岡市が今後農業を絡めた形でどうなんだろうか。

事務局

今のご指摘は、あさはたの遊水池を整備するときに、今畑としてやっているところを潰して公園にするということで、もう一つは地元の皆さんがかわいがっていたところに何をしたらいいかというところで、実際には農園みたいなものもある。

もう一つは、例えば小さい公園は地元説明に行って地元の意向で作っていくのだが、地元の皆さんが自由に使える花壇というのもありだが、自由に使える畑をやってみようというのもありである。地元説明でこれから絵を作るといふときにいろいろな可能性を提示させていただきながら絵を作っていく。広い公園というのはなかなか最近整備できていないが、地元に入ったときは皆さんが自由にやれるようなものを提案しながら絵を作っているというのが現状としてある。ただ、積極的にやったというのはあさはたの遊水地ぐらいである。

三津山委員

市民農園とか、農家の方が貸出するというのは当然あるが、都市公園のようなところに、農業というとならぬ話になるので、見栄えとかいろいろな観点からもあると思う。積極的に我々が行ければいいのだが、なかなか経営も厳しい中で行けないというところもある。余裕があれば実験的なことでいろいろなこ

とを試すのもありだろうが、すぐにはできない。将来的にも観光とか、見せるという意味でどうかなと思った。積極的にできるとよいと思う。

事務局

可能性としてはそういった話も地元の皆さんにしている。周りに畑がたくさんあるというか、農家の方がいらっしゃるようなところは特にバックアップしていただくという意味ではそういうものがあるとよい。あさはたはもともと農地ということがあったのでそういう取組をしているという事例であるが、まだ静岡市ではあそこだけである。

五十嵐会長

公園施設で分区園という施設がある。これがいわゆる市民農園である。分区園を作る公園というのはある程度面積がないと、100%分区園にしてしまうわけにはいかない。あさはたの公園は広いからそれが可能である。そういう需要が市民にあれば、少し規模の大きい公園でそういうエリアを用意するとよい。

静岡市は生産緑地に指定されているところが多い。本当に需要があるのなら生産緑地と一体となって考えるみたいな政策をやってもよい。そういう問題も社会実験に入っていくのではないか。利用の仕方や民間の導入とか、そういうものだけでなく、公園のあり方に対する検討もこの社会実験の中に入っているという話が今のご意見にはある。そういうことも含まれているということがわかるようにしたほうがよいかもしれない。社会実験の場としての利活用は、民間導入ばかり考えてやっているのかという話だと、何となくそれは違うのではないかという話になってしまう。基本的には面積が増えてくると同時に、管理費が問題になってくるので、それをどうしようというところから始まっている話である。ぜひ社会実験ということが市民に理解されるような打ち上げ方ができるとよい。説明の仕方は5-4の話と同じである。

青木委員

静岡市は植物園がない。ほかにはある。なぜないのか。作る話も聞いたことはあるが、いまだにない。神奈川県に行くと大きなところがあり、そこは花も楽しめて、生産、農業も全部やっている。子どもたちもずいぶん見えるし、入るにも私たちはシルバーで安く見られる。すごくよいと思う。そういうものが今の話から作るということはないのか。

事務局

植物園については、若手主体で検討会を庁内でいろいろな局から集まってやっている。静岡市の植物園のあり方、静岡市に植物園をもし作るとしたらどんなものがふさわしいかというところを検討し始めている。

静岡市というと、バラとかガーベラとかの生産がある。植物園というのは単に緑化意識の向上だけではなくて、教育であったり、観光であったり、いろいろな機能があるので、そこらあたりを今

検討している。

青木委員

南アルプスからあさはた緑地、三保の松など、いろいろな要素はあるのだが、その核となる施設がないので、そういったところを今検討している。今後、みどりの基本計画に、コラム的なものかもしれないが、植物園というのは出していきたいと思っている。もう1つ、静岡市は公園があるが、大きさがバラバラで、小さい公園もあり、大きい公園もある。私の地域はすごく小さな公園である。子どもを遊ばせるとしたら2歳児、よちよち歩きの子、幼稚園前、幼稚園児、小学校低学年の子が遊べる。あとはうちのところの公園は高齢者が散歩に出る、ひと休みする場所、そういう使われ方をしている。公園のサイズによって、大きい公園ではサッカーもできるし、遊びもできる。サイズによって、子どもへはこういうことを主体にしよう、ボール遊びができるとか、そういうのを考えてもらって、公園の利用のあれをアップしていただきたい。

特に鷹匠公園がいい例で、よく行くのだが、あそこはいろいろ揃っていて、遊具もよくなったし、特にシニアにとってはフレイル予防のための運動器具も置いてある。そこを歩けば結構いい散歩になる。そういうことを考えて作るということも公園を作っていくには大事なことだと思う。

木だが、うちの町内の公園は古いので高い木がある。夏は木陰を作るので涼しくてよい。冬は落葉樹で落ちるのでひなたになる。高い建物が周りにできてしまったので日陰を作りやすいのだが、ある程度年間寒いときには温めてもらえる、そういう公園である。そういうことを考えて公園というのは作ってもらえるとありがたい。

五十嵐会長

声を大にして言ってよい。まさに一番大事なところで、前のところで公園の適正配置の話もあるし、静岡においては逆に身近な公園がない地域が多いという指摘もある。適正配置というのがある。一番小さいのが昔でいう児童公園、小さい子どもさんが遊ぶ場所。そのすぐ周辺に近隣公園という1ha級のものがあり、さらにそれが4つ集まったら区域で地区公園4ha、今度はまちの人口単位で総合公園や運動公園をという適正配置をやらなければいけない。それに静岡市がのっとなっているかどうかという反省の弁が前のほうにあったが、今の意見もぜひ参考にしていきたい。

青木委員

樹木のことだが、駿府城公園ですごく感じるのだが、この季節はツツジがきれいだった、この季節はイチヨウがすごくきれいに紅葉していた。それが変なときに剪定して、その後は見るも哀れ。イチヨウはゴールドデンシャワーで素敵と言っていたが、全部なくなった。ツツジも変なときに花芽を切るような剪定をした。今年

のツツジはどうかと思ったが、最盛期には花が茂って土が見えないように植えるのだが、花木もそうである。植え方というのはある。こちらはすごく土があるが、こちらのほうは詰まってるとか。その辺が全く。素人でもわかることではないか。私は素人だが、グリーンバンクの講演会で剪定の話の話を聞いたり、『趣味の園芸』は絶対に逃さずに聞いたり本を読んだりしている。そういう知識は多少ある。専門業者がとんでもないことをやっているといつも思う。がっかりする。いろいろ作業をしていると、今年はツツジが咲くはずだったのに、咲いていないとがっかりされている人が結構いる。私もその中の一人である。

五十嵐会長

結構いる。石垣の上のツツジはものすごく有名だったが、このごろ咲かない。

青木委員

しょぼくなってしまって本当にがっかりである。これから葵船でやるが、船から見た景観も大事だと思う。4月に500円で乗れたときに乗ったのだが、そういうときに季節のものが見られるというのは1つの楽しみになる。緑色というのは1つではない。グラデーションがすごい。そういうことを意識して植えてもらいたい。考えてほしい。

事務局

青木さんがおっしゃっていることは私も常々感じている。安心してもらえるようにPRも兼ねて話をすると、まさにご指摘のとおりで、青木さんには協議会で大変お世話になっている。公園の手入れにも協力していただいている。駿府城公園は観光客が非常にたくさん訪れるということで、その問題点を今年洗い出して、来年、再来年から手を入れていく。昔はオオムラサキツツジの群植でものすごくボリューム感があった。そこもフォローしていく。実生でとんでもない木がたくさんあるということで、もっとすいて日が当たるようにする。文化財がしっかり見えるような修景景観を今作っている。その辺は部分的ではあるがあと数年後には解消できると思っている。一番メインとなっていたオオムラサキの群植のところは見場がよくなるように捕植もしていく。安心していただきたい。

五十嵐会長

今日は残念ながら西野委員が欠席であるが、西野委員に聞かせると俺が悪いのではない、市の発注の仕方が悪いという言い方になってしまうかもしれないが、そういう問題は全国で結構多い。

伊東委員

野菜の関係だが、都市公園で大量に何か野菜を作るといのはなかなかない。最近ガーデンパークでやろうとしているのがポタジェガーデンで、見せる野菜、かつ食べられる。そこにあるおしゃれなレストランで使うという取組であれば小さいところでもできる。ご紹介である。

都市公園で神戸に布引ダムがあり、その上の公園では、おしゃれ

大石委員

なレストランと一緒にポタジェガーデンがある。食べられるのだが、見ても楽しい。オレンジ色のカボチャがあったりする。

皆さんの意見と重複するが、大浜公園もこれから整備に入ると思うが、特にこの間、富山からスタートしてアルプス縦断というのをテレビで4、5日やった。あれが大浜公園の波打ち際がゴールだった。これは10年ぐらいやっている。全国的にテレビ放映もされたし、人気がすごく上がっている。そういう形の中で大浜公園の一角の大浜がそうになっているということは、先ほどの公園DXではないが、選手二十何人参加して一人に全部メールでスマホを持って瞬時にわかるような形になっていた。ようやく全国ネットになった。こういうものもうまく活用することが1つ。

駿河湾、大浜の波打ち際がゴールなので、あそこは最近いろいろな駿河湾の活用ということで、漁業から、観光船だとか、いろいろあって、富士山から駿河湾まで7000mになる。そういう漁業的な問題、景観の問題、防災の問題、すべて関連してくるが、何か総合的に見て、大浜公園の位置づけということ、先ほど青木さんからも小さいものは特徴づけたというようなことがあるが、うちのほうも小さいところでも最近桜が非常にいいと。特に緋寒桜は1月で、2月は河津桜、これからソメイヨシノとなっていく。駿府城公園もそうだが、例えばそういう区分けをして、ここはこうと。先ほど農業のこともあったが、我々は小さい中でもキッチンカー的なものも用意したり、大して広くない公園だけれど最近公民館を作って子育てサロンを開催したというようなこともある。最近いろいろな形で特徴づけをあらゆるところでやりだしていただいている。そういうものを総合的に見て区分けして、ここに来たらメールをチェックすると、こんなのができるなという形のものが、今の中のボール遊びの関連もあるが、そんなふうに区分けをした中でこれから進めていける、そういうことも協議会をこれからどう作るかということもあるが、まず特徴、大小中、いろいろ都市公園、それ以外のいろいろなものがあるが、特徴づけをしていかれるといいのではないか。

五十嵐会長
事務局

大事なことである。

大浜公園はプールがメインで、夏は人がすごく来るが、それ以外のプールをやっていないときにはあまり人がいない。今回、プールと公園部分もあるが、通年楽しめるような施設ということでいろいろ検討している。トランスジャパンは砂浜がゴールになっているが、そういうところも将来的にはこれができたら公園の中をゴールにしてうまくできるような仕組みもいろいろ考えたいと思っている。

五十嵐会長

6章の説明はあるのか。

事務局 大石委員がおっしゃった大浜公園とか、重点プロジェクトが3つある。重点プロジェクトの説明と、グリーンインフラの事例の先行プロジェクトの説明、計画の推進に向けた説明がある。

五十嵐会長 特に前回説明したことに加えてというものはないのか。

事務局 一部ある。前回説明したのが6-4の評価の設定、P121だが、その前のP113からP120まで今回解説させていただきたい。

3) 第6章 計画の推進に向けて

五十嵐会長 これについてご意見、ご質問があればお願いする。

川口委員 重点プロジェクトの推進で、整備の年度目標は全く載せないのか。この計画範囲の中でやるということなのか。特に重点プロジェクトなので、今ある計画の目標年度的なものぐらいいは欲しい。大内新田と上土団地のほうも、これはこれから検討なので、どの段階ぐらいいに今あるのかがわかるといい。上土団地は建て替えが主体なので、そちらが決まらなないと難しいとは思いますが、スケジュール感、段階感が見えるといい。進んでいるという感覚が読み取れると思う。

事務局 大内新田と上土団地はまだ検討段階のところもあり、来年度にはもう少し煮詰まった内容になってくると思う。その時点で最新の載せられる範囲でスケジュール感も含めて更新を考えたい。

五十嵐会長 重点プロジェクトについては川口委員の言うように、事務局の皆さんの張り切りぶりを書いてほしい。

守屋委員 大内新田に関しては基本は遊水池で、上土についても大内にしても今まで何度も水が上がっている。上がっていることがわかるのに、宅地開発などは市が許可を出している。そのときに巴川のそばで溢れるというのがわかっているのだが、この周りは宅地にしてはいけないとか、何m上に上げなさいとか、そこは命を守るための基本だと思う。それが今まで何もなされずに、大雨が降ると、また上がった。巴川を改修するにしても、巴川を広げる場所がない現状で、無駄なところに税金を使っている。追っかけでやっているのだから、根本のところを何とかしないと、緑地にしても予算がなくなっていくとか、目減りだという、余計なところにお金を使っている、本来必要なところに税金が使われていない気がする。

大内は、公園は完全に水に浸かることがわかっているから作ると思うが、土地を上げるとか、もっと掘り下げるとか。

上土団地の場合は、団地を嵩上げて建てると思うが、団地の建物の下に東京ではないが、水を溜める場所を作って、流れてきて

もそちらで一時溜めることができるとか、きちんとそういうことを考えた上でのあの場所ならばということを考えていかないと、上のほうだけ緑地にしてきれいにしているではなくて、一番大事なところは命を守るところだと思うので、そこがきれいとかみどりという陰に隠れてしまっているような気がする。

もう1つ、重点プロジェクト2で、日本平はすごくきれいでいいと思うが、現状では車でしか上がれない。歩く方もいる、自転車で行きたい人もいるのであれば、茶畑の間を安全に歩ける道の整備だったり、サイクリングロードみたいな形で自転車で上に上がれるようにすると途中のみどりを感じることができるのではないかな。検討いただきたい。

事務局

それができればより魅力的な場所になると思う。

五十嵐会長

大事なことである。より魅力を高める。

事務局

大内新田と上土団地の1つ目の課題はまさに静岡市も喫緊の課題として認識している。流域治水として、流域全体で何とかしていこうということを考えている。地下にタンクを作るとか、掘り下げるということを河川課とか、住宅の場合は住宅政策課と連携して今後進めていきたいと思っている。

五十嵐会長

よく調整してもらいたい。庁内会議があるから間違いないと思うが。

杉本委員

大内新田は今から計画するわけだが、ここに防災機能の強化と書いてあるが、私も10年近く前に行ったが、津波があったところである。防災公園というのがすごく基本的にきれいにできていて、いすを上げるとトイレになるとか、こちらをあけると中心に大きなテントになるような屋根つきのものがあったり、基本的にすべて揃った公園を見てきたことがあるんです。見本になるような、そういう公園が1つあればよい。すごいお金がかかるみたいで、私も安倍川の向こうに住んでいて、向敷地のほうにようやく公園を作ってもらった。そのときにそういうのができるかなと思ったが、お金がすごくかかるから無理だと言われて、普通の広場になった。どこか1つ新しく作るのであれば、皆さんに見せられるような、みんなで見に行けるような場所にしてはどうか。

青木委員

私も杉本さんの意見についてすごく思うことがある。静岡市の公園は、例えば地震があって逃げる場所がない。まちの中に住んでいる、家を耐震にして、家の中にいる。避難所に行くところはない。学校も駄目だからと言われている。公園のほうもそういう機能が全くない。あそこに行ったって何のあれもないということになる。住民はどうしたらいいのかという思いがすごくある。これからの公園づくりで、防災公園的なことを意識して作ることは大切だと思う。

事務局

公園の機能の1つとして防災の拠点、防災・減災というのは大きな機能の1つだと思っている。新たに作る公園については、地元の皆さんのワークショップで、どんな公園がよいかを考えながら作っていくのだが、防災の拠点としていくのか、もしくは子育ての拠点とするのか。1つのイメージというか、どんな公園にしていくかというコンセプトを決めていくのだが、限られた予算の中でどこにお金をかけていくのかということ在地元の皆さんと考えながら進めていけばよいと思っている。この計画の中でも身近な公園の整備というところで、防災の機能は大きくうたっている。今後考えながら進めていければと認識している。

青木委員

もう1点、とても気になることがある。最近静岡市は木をバサバサ切っている。特にケヤキは年数がたって太くなっている。切るには切る理由があると思うが、ここまで育ったものを簡単に切らなければならないのかわからない。木を植えたら大きく大事に育てる。何でも育てないと駄目である。育てるには管理が必要である。それがどうなっているのか。あんな素敵なイチョウの木をバサバサ切ってしまったとか、それも感じる。あんなに太いケヤキがなぜ切られてしまったのか。今も県庁のところを歩いてきたが、2本切られた。市役所から県庁を見たときにあの木が素敵だ、みどりがいいなと感じていた。

事務局

あそこのケヤキは我々も心苦しいところあった。切った切り株のところに切った理由というか、空洞になっていたというのを示されていると思う。台風で枝が落ちるといことはもちろんだが、そのものが倒壊してしまうというおそれがあった。樹木医による調査をして、中がこれだけ空洞になっているということが確認できたので切っている。それを市民に広く知らしめる情報発信が下手だったと思っている。

青木委員

鷹匠中央通りも切られている。あそこまで立派に、ビルの3階以上の高さで、夏はあそこを通ると茂っているので日陰があつてすごくよかった。落ち葉は周りの人たちには苦情のもとである。掃除が大変とおっしゃるが、木というのは落葉樹があつて、落葉樹の1年間の変化を楽しむということであるから、掃除もそういうことを考えれば、溝のところをやってくれればよいと思うのだが、それがなかなか皆さんいろいろな考え方があるのでそうはいかないと思うが。

五十嵐会長

そういうことも啓蒙活動として、アンケート調査で相当数の人が今後とも管理の手伝いに行かないという反応があつたが、そういう市民感情をどのようにして今お話があつたようなことに嬉々として取り組んでいただけるような市民になっていただくかということも考えるべきである。

青木委員 個々の考え方が変わればみんな変わる。その考え方がすごく明るく変わっていけばいいのだが、そうではない方もいる。体調や年齢もいろいろある。今静岡市はフレイルということはこの間聞いてきた。高齢者はフレイルにならないように各個人が意識してやらないと、今みんなしょぼくれて困ってしまうことになる。

五十嵐会長 植物を大事にして、きれいにするとか、そういうことに積極的に取り組む方が多いのかと思っていた。

青木委員 多いと思う。一緒にやっている人たちは、植物はすごく元気が出るし、みんなにも喜んでもらえるし、小さい子どもとも話ができるということで、やっているといろいろな人が励ましてくれる。それが元気のもとで、私たちのグループはみんな手入れに自然と出てきてしまう。

五十嵐会長 そういう声を聞くと本当に力強いのだか、アンケート調査の結果を見ると何か先が見通せない。

青木委員 その辺である。こういうのはもっと発信していったほうがいいと思う。私はアナログでスマホも使えない。あんなのを持っているとかかってくるとどうしても出なければならない。面倒くさいということで、そういうものを拒否してやっている。何でスマホを持たないのかと言われるが、必要ないということではまだにその気もない。しかし、現実、買い物に行くとすごく感じる。すべてデジタル化で、こちらのスーパーはこれが使えるが、こちらは使えないということで、支払いでもまごまごするので困る。時代の波に遅れているので仕方がない。

五十嵐会長 いいご意見がたくさん出たので、まとめるときに加筆なりいただきたい。

青木委員 もう1つ気になっているが、市の木がハナミズキになっている。西洋ハナミズキを植えている。植物の外来種云々ということが書かれているが、そういうところに市民から意見は出ていないのか。ハナミズキは好きなのでよいのだが、環境のSDGsの話と絡むかもしれないが、市の木の話も何か火がつかないかと思っている。ハナミズキも静岡市は咲いているところが少ない。唯一思うのは刑務所がある竜南通りである。あそこにハナミズキがある。駿府城公園もハナミズキはないのではないか。そういうところを考えていかないとまずいのではないか。

青木委員 タチアオイもそうである。巽櫓のところに鉢植えで少しあったのだが、最近みんな消えてしまった。あるところもある。杉本さんのやっているところ、あるいは音羽町の電停のところはいつもテレビに出ていて、あるところにはあるが、あまりここはというところがない。羽鳥のほうにもあるところはある。その辺のところかどれぐらいの意識があるのか。

タチアオイは1週間しか楽しめない。そういう点でなかなか難しいのかなと思う。市とか県とかどういうものがもう少しあるといいのかなと感じる。

竹内委員

P53に移住促進を始めた人口について書かれているが、最近静岡県は最も移住したい場所であるリストに登録されて、かつ「どうする家康」という番組の中で、家康は隠居の場所に静岡を選んだということは、彼がいろいろ全国を知っている中でここを選んだときに、それに付随して家康産業 2000 人ぐらいの人たちが江戸からやってきて、それが静岡のいろいろな技術を高めていった。ナスなんかもそうである。そこに関してもう少しアプローチが欲しい。

結果的に、隠居というとあまりいいイメージではないが、いいイメージとしてそういう場所を積極的に出していくのが今タイムリーなのではないかというときに、年配の方が大事にするのは愛玩動物のペットとか、そういう部分に関しても、これは都市公園審議会のほうのmatterかもしれないが、ドッグランであるとか、住みやすい、そういう部分に関しての生きがいというか、生き様というか、そういう部分についてももう少しアプローチが欲しいと考える。

静岡県の長寿は川根本町とずっと言われて久しいが、そこは自然の中でみんなが歩き回っていて、あそこの特有の人柄とか、あまり積極的には出てこないけれども、じっと木の陰から見ながら、でも寄り添って生きているという人たちが、今斜面とかそういう部分でお茶の世界の中でもやっておられるので元気だという話をお医者さんから聞いたことがある。そういう先進事例というわけではないが、参考にすべき場所があるので、今日話を聞いていると、ハード面とかハコモノ的な話は結構出ているが、防災公園だと例えば熊本震災の後にあそこの公園をどう使ったかということもかなり造園学会等でも扱われた。そういう勉強会とか、ソフトに対してもう少し、先ほどの啓蒙も含めて、いろいろな知識やノウハウを持っている方を共有化し、次世代につなげていくという、みどりの観点というところをもう少しクローズアップしていただくところがあったらよいのではないかと今日の議論を見ていて感じた。

三津山委員

もう1点、P119、計画の取組主体と推進体制ということで、「輝くみどりを未来につなぐ」と言葉はよいのだが、各取組主体のところ静岡市は「推進します」という言葉で終わっている。市民、事業者、その他は「期待されます」である。期待は必ず裏切られる。P111もそうだが、「担い手を広げていく」、「事業者が参入しやすい環境づくり」と言葉はいいのだが、結局誰が維持していく

かという話になる。どうしてもそこが問題である。農業は特にそうである。先ほど青木さんから剪定の話があったが、私の家に格好いい松があって、昔からの造園業者に剪定してもらっていた。あるとき、安いシルバー人材に頼んだら見るも無残な姿になった。それと同じように、やるべき人が手をかけてやらないとなかなか行かない。継続、維持管理していくというのをしっかり考えないといけない。計画を作るのはいくらでもいい。誰が手を汚しているか。その計画が非常に心配である。今農業もひどい状態なので苦労している。みどりを維持管理していくというのは非常に難しいものである。期待されるのはよいが、この書き方はどうなのか。

五十嵐会長

大事なことである。私もここを読んでいて、静岡市が「推進します」と、ただ旗を振っているだけなのかという感じに取れてしまう。

事業者というのは何をイメージしているのか。市は入っていないのか。民間に頼ってしまう。これははっきりさせておいたほうがいいと思う。このままだと静岡市は事業者にならないのではないかと見えてしまう。本来はみどりの基本計画は基本的に市民、事業者、民間、関係団体、専門家の協力を得ながら静岡市が中心になって進める、こういう計画である。静岡市は旗を振っているだけで終わってしまうような書かれ方をしないように検討していただきたい。

竹内委員が言われたことは輝く静岡の下地になる話だと思う。静岡の素晴らしさということがあるはずである。そういうことがどこかに入るとは大事なことだと思う。家康の話を出してきてもいいのではないか。

重点プロジェクトの推進というテーマになっているが、世界に輝く静岡実現のためのプロジェクト推進とか言っているのではないか。それで重点プロジェクトとしてこういうのを挙げてやっていくという話にして、単に重点プロジェクトというあまり総合計画と馴染んでいない、単にみどりの基本計画の中の重点の話だと思われてしまう。ぜひそれはやってほしいと思う。

川口委員

6-3のところ、各個別の人たちへの物言いがはっきりしないところがある。これは見直しをしてもらいたい。

この3者の関係の中でお互いにみどりの価値の共有をして、そして共創していく。今課題になっているのはみどりに対する価値の揺らぎがあって、人が多様化している中で、価値の共有化をまずベースにしなければいけないのではないかと最初に言うよりも、ここのところこの関係の中でお互いに価値の共有化をしていきたいと思いますというのがこの図の中に見えるといいか

五十嵐会長

なと思う。

非常に大事なところである。よろしく検討いただきたい。

来年まだ意見を言う場がある。今までの修正に対しても言っている。今日で終わりではない。よろしく願います。事務局は検討をよろしく願います。

以上